

第9回東通村まち・ひと・しごと総合戦略本部幹事会議事録

1. 日 時 令和2年1月31日（金）9：00～10：00
2. 場 所 庁舎2階会議室
3. 出席者 菊池敢世幹事長、小笠原伸一幹事、宮本憲明幹事、川上博之幹事、大竹実幹事、石田義宏幹事、真手義照幹事、畑中能文幹事、角本晃幹事
（欠席者：松木敏夫幹事）
事務局：坂本淳総括主査、高橋聖子総括主査、五十嵐裕也総括主査、四ツ谷隆徳主査

4. 概 要

- (1) 今年度の取組実績と今後の予定について
- (2) 第1期総合戦略の数値目標と検証結果について
- (3) 人口ビジョンの改訂（案）について
- (4) 第2期総合戦略（案）について

資料1～資料5に基づき事務局より説明

水振 GL：3.11 後に、政府の見解として、着工済みの原発は新規の原発には当たらないと示されていたが、それ以降変わりはないか。

原安 GL：既に着工済みの原子力発電所の取扱いについては、現在も政府の見解に変更はなく、新規の原発に当たらないとされている。現在示されているエネルギー基本計画においては、2030年代の電源構成のうち、原発の比率20～22%を目指すとしており、東京電力東通1号、大間原発、島根3号はこの中に含まれる。また、現在の政府においては、新規の原発建設は想定していないという見解である。

水振 GL：村には東北電力2基、東京電力2基の計画があるが、それは国に認められており、着工はしていない2基も建設は認められているのか。

原安 GL：現在計画段階となる2基は、政府において着工を認められているというわけではない。現時点では、村と事業者の間での計画であり、政府は新規の原発建設は想定していないというスタンスである。

幹事長：村は4基の計画を進めるスタンスである。

原安 GL：エネルギー基本計画において、原子力は2050年代の脱炭素化電源の有力な選択肢の一つとして示されており、一定規模の原発比率を維持するために、将来的に廃炉が進めば、新規が必要になると認識している。

幹事長：村の人口ビジョンでは、高い目標を掲げている。現在の人口を維持するため、社会増減、自然増減をそれぞれ綿密に計算して出している数値である。

水振 GL：人口ビジョンの目標を高くすることは、財政ビジョンにも関わってくることである。ビジョンが絵に描いた餅にならないようにしなければならない。

商観 GL：総合戦略が文字ばかりなので、ワークショップの写真を載せるなど、見てもらえるよう工夫をしてはどうか。

幹事長：校正を検討する。

土木 GL：たくさん事業が載っているが、予算はあるのか。

幹事長：第2期総合戦略に掲げている事業は、計画期間内に実際にやるものを載せている。財源は、交付金、補助金のほか、企業版ふるさと納税を活用する。企業版ふるさと納税に係る地域再生計画の認定申請を国に提出したところである。

土木 GL：まちづくり整備課に関わる事業がたくさんあり、マンパワーの確保も必要になってくる。

事務局：2月7日までに、各資料の確認、修正をお願いする。

以上